

(様式第 1 号)

■ 会議録 □ 会議要旨

会議の名称	令和 7 年度第 1 回芦屋市福祉のまちづくり委員会
日 時	令和 7 年 1 0 月 2 1 日 (火) 午前 1 0 時から正午
場 所	芦屋市役所東館 3 階災害対策本部オペレーションルーム
出 席 者	委 員 長 藤井 博志 副委員長 松本 明宏 委 員 姫野 通子、岡田 雅代、池内 くみ、北村 広美、岩本 仁紀子、 山本 弘美、吉野 哲夫、富久 ちづ子、竹迫 留利子、埴山 陽子、 浅田 陽一、山川 尚佳、山田 弥生 欠席委員 笠谷 泰宏 関 係 者 第 2 層生活支援コーディネーター 船寺 恵子、藤本 亮、寺岡 由記 崎山 真澄、土肥 拓路
事 務 局	芦屋市社会福祉協議会 山崎 元輝、三谷 百香、宮平 太、針山 大輔、三芳 学、和田 真砂子 こども福祉部福祉室地域福祉課 吉川 里香、亀岡 菜奈、岡本 ちさと、山口 創平
会議の公開	■ 公開
傍 聴 者 数	0 人 (公開又は一部公開の場合に記入すること。)

1 会議次第

(1) 開 会

【協議会の成立について】

開始時点で委員 1 6 名中 1 5 名の出席を確認

(2) 議 事

報 告

(1) 多機関協働推進委員会の報告について

(2) 地域づくりの活動報告について

協 議

(1) “2 0 3 0 年の芦屋” にもっとも大切なことは？

(3) 閉 会

2 提出資料

事前資料 1 多機関協働、福祉のまちづくり委員会これまでの議論経過等

事前資料 2 就労準備・社会参加事例

事前資料 3 縁ノ場報告

事前資料 4 令和 6 年度第 2 回グループワークまとめ

当日資料 1 委員会の位置づけ

当日資料 2 グループワーク進行説明資料

当日資料 3 令和 7 年度第 1 回芦屋市福祉のまちづくり委員会【グループ分け】

3 審議内容

(事務局 吉川)

ただいまより、令和7年度第1回福祉のまちづくり委員会を開催します。

開会にあたりまして、藤井委員長から一言お願いします。

(藤井委員長)

福祉のまちづくり委員会が始まり、今年で2年目、今回の開催が3回目となります。皆さんは、福祉のまちづくり推進委員会の第一期生として、福祉のまちづくり委員会が今後、どのように協働の基盤をつくっていくのか、どんなまちづくりのイメージを描いて、委員会を進めていくのかを、知り合いながら議論してきました。今日の議論を踏まえて、年明けの4回目に、まとめをしていきます。本日はそのプロセスの過程であることを共有したいと思います。

また、地域福祉計画に基づいて二つの委員会、多機関協働推進委員会と福祉のまちづくり委員会があります。地域福祉とは文字通り「地域」と「福祉」から成り立っています。福祉を担うのが、専門機関が協働していこうという多機関協働推進委員会、地域を担うのが、地域の様々な団体や住民が中心となり、福祉も見ながら、まちづくりを進めていこうという福祉のまちづくり委員会です。

本日は、初めに、多機関協働推進委員会と地域づくりの活動報告があり、次に、“2030年の芦屋に最も大切なことは”をテーマに協議を行います。来年度には、5年先を見据えた地域福祉計画の更新作業が始まります。今年度の委員会では、福祉のまちづくり委員会を今後どうしていくのかという土台づくりに加え、地域福祉計画策定のための重要な資料となります。今年度は、この二つの目的を意識しながら、進めていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

報 告

(1) 多機関協働推進委員会の報告について

(事務局 岡本)

お手元に当日資料1と事前資料1のご用意をお願いいたします。

まず、当日資料1を見ながら、なぜ、多機関協働推進委員会の報告をするのかについて簡単に振り返りをさせていただきます。

この福祉のまちづくり委員会は、主に、図の右側の部分、地域づくりに関する協議を行う場となっています。地域づくりというところで、孤立しないようなまちづくり、居場所やつながりなど、どんな地域になっていったらいいな、というようなことをこの場で話し合っていきたいと考えております。

一方で、多機関協働推進委員会は、図の左側の部分、高齢や障がい、生活困窮、こどもといった各分野の専門職が集まって、世帯全体をまるごと支援していくために、どのように分野を

超えて連携しながら支援を行っていくか、また、困っている方が社会や地域の中に関わりを持ち、地域の中で暮らしていくためにどのような支援ができるか、といったことを考えております。

それでは、多機関協働推進委員会の報告をさせていただきますので、事前資料1をお手元にご用意ください。

まず、12月に開催した委員会では、専門職間の連携や社会への参加支援に関する取組について、取り組んだ内容とその成果、課題を協議しました。相談事例の中に「さみしい」という主訴が多いことに着目し、社会的孤立や役割、活躍の場を求めるニーズがあると分析し、「さみしい」をテーマに事例検討や研修を実施しました。委員さんからは、高齢者の万引きがさみしさに起因している可能性があること、また、さみしいと言うことができていないことから支援につながっていない人へのアプローチも課題であるとの意見がありました。

次に、今年6月に開催しました今年度第1回目の会議では、社会と関わりなどをつくることに不安がある方が、カフェや畑作業、就労体験などのプログラムを、本人のペースに寄り添いながら実施している事業、就労準備支援事業と社会参加推進事業の取組の経過について振り返りを行いました。委員さんからは、本人のやりたいことや言葉を聞いて一緒に考えながら取り組んでいくことの重要性や、地域のつながりが希薄化している中で社会との関わりを作っていくためには、地域の人に関わってもらうことの重要性などについてご意見をいただきました。また、地域とのつながりという点では、子供の社会性を育むためには、地域の協力も必要で、いじめや不登校などの予防にもつながるというご意見をいただきました。

最後に、9月に開催しました生活困窮者自立支援専門部会での協議についてです。お手元に、事前資料2をご用意ください。

この専門部会は、多機関協働推進委員会の部会として設置しており、生活困窮者支援に関することに特化して協議を行っています。

記載の各事業より、昨年度の実績と今年度の取組予定について報告をしました。特に今回は、事前資料2のように、支援がどのように展開し、ご本人にどのような変化があったのかを時系列で報告したことで、委員さんからは、実際の支援事例を用いて、支援することでどのような効果があるのか、どのように生活が変わったのかというところを、市民や関係者に伝えてほしいという意見をいただきました。事業の効果をお伝えすることで、例えば、これまでお金を貸してくれないならもう支援はいらないといっておられたような方や、社会につながるイメージがわからず相談をしていなかったかたなど、まだ支援につながっていないかたへのアプローチを広げていければと考えております。

(2) 地域づくりの活動報告について

(事務局 針山)

地域づくりの活動報告についてご報告をいたします。事前資料3をご用意ください。

8月6日、8月18日、8月27日の3日間、市内の3つの中学校区でそれぞれ開催しまし

た。活動の一番の狙いは、地域で行われている多くの住民主体の福祉活動と専門機関が行っている福祉活動をお互いに共有し、交流することです。その第一歩として、「縁の場～支援の前に、つながりを～」として、多様な住民主体の福祉活動団体等の活動者と、分野別相談支援機関や福祉施設等の従事者が、協働を意図した情報交換や意見交換する場を開催しました。具体的には、みんなで芦屋市の地図を見て、「私の活動場所」や「うちの地域の福祉っぽいところ」などについて、都度地図に付箋を貼りながら、話し合いました。

活動の振り返りは大きく4つあります。

1つ目、地域活動への関心と発見です。「知らない活動を知れてよかった」、「地域のことをもっと知りたい」、「新しい発見があった」という声が多く聞かれました。また、「地図があったことで、理解を深めることができた」という意見もありました。現在、付箋が貼られた地図を基に、情報をまとめたものを、G o o g l e マップに落とし込み、W e b 上で皆さんに見ていただけるように作業しております。

2つ目、交流の価値と喜びです。「初めて会う人と話せた」、「顔が見える関係はやっばりうれしい」、「今まであまりつながっていなかった人同士の横のつながりができた」などのお声をいただきました。交流の場としての価値があるのだと実感しました。

3つ目、次回開催への期待です。次回の開催について皆さんにご意見をお尋ねすると、かなり温度の高い地域では「3か月後」というお声もありましたが、「年に1回ぐらいでいいのではないか」など様々なお声がありました。おおよそ、半年から1年に1回というお声が多かったように思います。

4つ目、地域課題への気づきです。地図を前に地域の実態について、様々な方からお話を伺う中で、「交通が不便」、「買い物がしにくい」、「福祉施設が一つのエリアに集中している」など、新たな発見や気づきを得られたというお声が多く聞かれました。また、「防災、子育て、外出など、様々なテーマについて、次はもう少し深く話し合ってみたい」というご意見もいただきました。今後の展開については、皆さんと相談しながら一緒に考えていきたいと思います。

それでは、参加された方にご感想をいただきたいと思います。

(帰山委員)

身近なことでも知らないことがあり、地域のことを知る良い機会になりました。また、近くのこども園の先生と今後、交流を深めていけるのではないかなど、前向きなお話がたくさんありました。

(岩本委員)

縁ノ場に参加して、普段会えない方と様々なお話が出来て、とても良かったです。顔は知っていたけれども、あまり話したことがなかった幼稚園の先生と、親しくなることができて、とてもいい機会となりました。

(事務局 針山)

ありがとうございます。

この場で出会った方同士から、新たなつながりが生まれたというお話はいくつか聞いています。例えば、地域に貢献したいと考えていた教会の方と活動場所に困っていた地域の団体会い、ぜひ教会を使ってほしいと、その後の活動につながりました。また、地域支え合い推進員が、これまであまり関わる機会のなかった方に「縁ノ場に参加してほしい」と声をかけたことで、つながるきっかけになったというお話も聞いております。

(藤井委員長)

ありがとうございます。

ひきこもりの方の事例もありましたが、様々な形で地域から孤立した人が、再び社会参加していくためには、専門職や関心のある住民、本人が協働していく必要があります。福祉のまちづくり委員会は、こういう層と一般のまちづくりの幅の中で、住民同士が豊かに協働していくための話し合いが出来ればと思います。

また、縁ノ場もそうですが、住民が知り合うだけではなく、専門職同士、専門職と住民が知り合うことは、とても重要です。専門職もおおよそ中学校区では、保育園や幼稚園から高齢者施設まで、全分野的に資源があります。資源はあるけれども、知り合う機会がない。そういった意味では、専門職同士が集まることや専門職が住民と出会うことはお互いにとって良いことです。焦らず、ぼちぼち続けていただければと思います。

では、次の協議に進みます。

協 議

(1) “2030年の芦屋” にもっとも大切なことは？

(事務局 岡本)

それでは、協議のグループワークに移らせていただきます。

グループワークに入ります前に、前回の福祉のまちづくり委員会の振り返りと今後の流れについて確認したいと思いますので、お手元に事前資料1のご用意をお願いいたします。

下段が福祉のまちづくり委員会についてまとめた部分です。当委員会のこれまでの経緯や、予定を時系列で記載しております。

前回は今年の3月に開催し、協議テーマは「地域づくりにおける地域でのつながりについて」でした。地域で活動していく中で、誰とどのようにつながり、どうすれば活動が広がっていくのかについて、グループに分かれてご協議いただきました。その際のご意見をまとめたものが、事前資料4の表となります。

今回は、前回のご意見を基に、“2030年の芦屋” にもっとも大切なことは何かについてご協議いただきます。

事前資料1の一番右端をご覧ください。現在の地域福祉計画は、令和4年度から令和8年度までの5年間を期間として進めており、ただいま、令和9年度からの新たな地域福祉計画の策定に向けて、市民アンケートの実施や、市民の皆様と地域福祉について意見を出し合う場であるオープンテーブルを開催しております。そのような関係から、本委員会や、先にご報告しました多機関協働推進委員会で皆様にご議論いただいた内容につきましては、次期計画の策定過程にご意見として取り入れさせていただき、可能なものは計画に反映していきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それではグループワークに移ります。

(グループディスカッション)

(事務局 針山)

それでは、各グループのまとめた意見を共有したいと思います。

(Bグループ)

私たちは、出た意見を基に「多様性、全世代、楽しさつまみ食い型双方向コミュニケーション」とまとめました。

つながりが希薄になっている今、これぐらいならやってもいいかな、と思ってもらうことが大切だよねという話になりました。そのためには、双方向コミュニケーションということで、SNSなどを活用して、現役世代や中高生につまみ食いしてもらえるような仕掛けができたらいなという話がありました。また、顔を合わせることも大事だねという意見がとても多く、交流やイベントを様々な形で出来ればなという話になりました。5年先に向け、こういったテーマを目指すと、面白いのではないかなと思いました。

(Cグループ)

皆さんから出た意見のキーワードを拾い集めて、最終的には、「身近な地域でちょっと困ったが言える助け合える楽しいイベント」とまとめました。

地域の中には困っていても、困っていると言えない人がいるのではないかと、また、2030年には高齢者が今よりも増え、介護を要する方や認知症の方も増えるのではないかと、といったことから、助け合える関係がいいよねという話になりました。そのためには、日頃からつながることや、顔見知りになることが大事だけど、「楽しめる」ことがないと誰も出てきてくれないし参加もしてくれないという話がありました。

具体的には、高齢者のスマホ講座などでは、高齢者と学生が交流する場となっており、そういったつながる場が地域で広がっていくと、助け合える地域が少しずつできていくのではないかと話になりました。

(Aグループ)

意見をまとめると「地域のつながり」というキーワードが出ました。

地域のつながりを持つきっかけとして、楽しいイベントに人が集まるよねという話がありました。また、イベントとして一発限りにならないような継続的な体制や、イベントだけではなく、日常的につながる基盤がつくれたらいいねという話がありました。イベントとしては、美味しいものが、世代・文化問わず、テーマとして強く、「食」から始まるイベントもいいのではないかという話になりました。

(藤井委員長)

それぞれのグループですごくいいテーマをつけられました。このテーマは、要するに、多くの細かい意見がぶら下がったスローガンになるわけです。次回は、これらを深める作業として、出たスローガンと、皆さんが出された意見の両方を見ながら、もう一度具体的に話し合うと良いと思います。

私の知見も含め、事務局としても今後裏づけを考えて臨むといいと思ったことを、5点述べたいと思います。

1点目、今後の地域社会を考えていく上での普遍的な理念、すなわち多文化共生・多世代共生・社会的包摂（簡単に言うと地域共生）についてです。Bグループが挙げた「多様性、全世代双方向コミュニケーション」は、これにあたります。

このような社会をつくる時には、具体的な活動だけでなく、活動の条件整備について考える必要があります。事務局には、これまで行ってきた施策も含め、皆さんの考えと不適合はないか改めて考えていただきたいと思います。助成金や拠点整備、また地域支え合い推進員のあり方等も含めてよろしくお願いします。

2点目、2030年における少子高齢化や単身化の状況について、データを押さえておくことの重要性です。単身化が進むということは、世帯のつながりである地縁団体が、だんだん弱くなり、テーマ型の活動に大胆に移行することを意味します。Aグループが話していた日常と非日常などのイベントと仕組みの観点も、まさにその変化を示しています。テーマ型の活動は、多様化が進む中で不可欠ですが、一方で組織としての形をつくりにくい側面があります。そのため、地域の基盤となる中間組織にあたる地縁団体が一定程度維持されないといけません。テーマ型と中間組織、いわゆる地縁型の団体の連携・分担をどう考えるのが重要になります。個人と社会を結ぶ中間組織には社会福祉法人も含まれ、施設が地域づくりをするというものです。今日は専門職と地域の協働のプランは出てきませんでしたが、そういった仕組みをつくり、新しい形で安定させていくことが重要になるので、地域の変化をしっかりと押さえておく必要があります。

3点目は、二つの孤立についてです。一つは、多様化が進んでいることによる、小さい仲よしグループとしての孤立です。小さく集まってはいるけれど、楽しいイベントなどを通してみんなで知り合いたいよね、といった「知り合いたい欲求」を持っています。

もう一つは、SOSが言えない、ちょっとした支援が欲しいなど、グループに属さない人の

孤立です。こういう方に関しては、専門職はもちろん、福祉推進委員、民生委員、ボランティアといった住民が、先ほど話した「知り合いたい欲求」ではなく、「共に生き合いたい欲求」で関わっています。この2つの欲求を満たすような、地域づくりやその仕掛けが必要になると思います。

4点目は、地域づくりにおいては、やはりリーダーが重要だということです。トップダウン型のリーダーは望ましくないという意見もありましたが、これからはテーマ型の小さなグループが増えるため、小さなリーダーがとても重要になります。ファシリテーションとリーダーシップは本質的には同じであり、ボス型リーダーとは異なる、本来の意味でのリーダーが求められます。実は今日の議論は、皆さん一人ひとりがリーダーとして何を考えているのかを共有する時間でもありました。地域づくりにおいて、リーダーへの着目はとても重要で、小さなリーダーを生み出したり、支えたり、元気にすることで、つながりが広がります。地域支え合い推進員には、一般地域ではなく、リーダーをどのように支援していくのかを考えてもらいたいと思います。そして、皆さんが言うように、「地域づくりは楽しくなければ住民は参加しない」一方で、皆さんが続けてこられたのは「楽しい」だけではない、楽しいよりも深いところにある「喜び」を感じているからではないでしょうか。喜びを感じられるリーダーや、そのリーダーが生まれる土壌をどのように整えていくのかについても、考えてもらいたいと思います。

5点目は、皆さんの議論の中ではあまり触れられていなかったかもしれませんが、将来を考えるうえで、重要な多文化共生、多世代共生、地域共生の中の多世代共生についてです。この多世代共生のニーズはとても高まっています。高齢者がこども向けの集まりをすると、自然と保護者世代も関わり、多世代交流が生まれます。そういう意味では、学校と地域の交流も含め、こどもに着目した取り組みがとても重要になると思いますので、こうした視点も補足して検討していただければと思います。

(事務局 吉川)

皆さん、様々にご意見いただきまして、ありがとうございます。やはり地域のつながりというものは奥深く、皆さんがお考えになっていることをすべて形にしていくのは容易ではないですが、今日いただいたご意見を実現していくことで、新しい形での地域のつながりが出来るのではないかと感じました。本日いただいたご意見につきましては、整理・まとめたうえで、次回の委員会につなげていきたいと思います。

次回の委員会につきましては、年明け2月頃に実施できればと思っております。日程が決まりましたら、また事務局からご連絡させていただきますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

(藤井委員長)

それでは、閉会させていただきます。皆さん、ご苦労様でした。

閉 会